

～先生のおすすめ本～ その2

小野 副校長先生

『銃口』 三浦 綾子/作

第二次世界大戦の戦中・戦後に教員として働いた女性の物語です。
主人公が試練を乗り越え、激動の時代を生き抜く姿や様々な人間愛が描かれています。
今の時代を生きる中学生にぜひ、読んでほしい本です。

町井 先生

『そして誰もいなくなった』 アガサ・クリスティー/作

孤島に招き寄せられた面識もない男女10名。
無意味な童謡の歌詞になぞられて、一人ずつ殺害されていく。
強烈なサスペンスに彩られた最高傑作を堪能あれ。
ミステリ好きな人は是非とも。

伊藤 先生

『饗宴(きょうえん)』 プラトン/著

古代ギリシャの哲学者ソクラテスが様々な知者と語り合い、物事の本質を解き明かしていく対話篇の一つです。本編は、「恋」という人間誰にでもある現象を追求するうちに、いつの間にか「美そのものへの愛」に至りつくという、驚くべき構成をとっています。中学生にはやや難しいテーマですが、時間のある時だからこそ、お勧めしたい1冊です。

山本 先生

『コーヒーの冷めないうちに』 川口 俊和/著

過去に戻れる席がある喫茶店を舞台に、来店する人々が体験する出来事が描かれている。ある席に座ると自分が望む時間に戻れるという噂を聞いて集まる人々。
過去に戻れるのはコーヒーをカップに注いでから、そのコーヒーが冷めてしまう間だけ。映画化もされています。

梅田 先生

『友だち幻想』 菅野 仁/著

「友達100人できるかな。」と小学校の入学前に言われましたよね？
でも、実際の人づきあいてなかなか思うようにいかなくて、難しいと感じる経験をしたことがある人もいるでしょう。
そんな人間関係に悩んだり、もやもやした気持ちになったりした人に読んでほしいと思います。